

下関市小学生中国派遣研修を終えて

下関市小学生中国派遣研修団 団長

下関市立豊東小学校 校長 金 嶋 敦 浩

下関市・青島市友好都市締結40周年の節目にあたる今年度、第20回下関市小学生派遣研修団の団長として中国青島市での5日間の研修に参加させていただきました。事前から綿密に計画された研修内容の元、意欲的な研修生一人ひとりが、「はじめて見るもの、はじめて聞くもの、はじめて触れるもの、はじめて食べるもの」等に囲まれる中で「はじめて感じる多くの感動」を体験することのできた貴重な研修となりました。また、どの訪問先においても温かい歓迎やおもてなし（熱烈歓迎）を受けたことや現地の皆様に大変お世話になったことは、深く心に刻み込まれています。

参加した15名の研修生全員がこの5日間の研修を通して、間違いなく国際理解の素地としての見方や考え方を身に付けました。中には研修前には中国という国に対して、良いイメージをもっていなかったり、ステレオタイプの思考をしていたりする研修生も見受けられました（大人の私たちやメディア、社会の責任でもあるでしょう）。しかし、現地で実際に様々な人々とふれあい、小学生同士での交流を重ねる中で、今までの自分の価値観にはなかった視点から中国という国を捉えはじめていきました。そして自分なりの正解を見つけ出しました。自分が感じたものこそが正しい理解だということにも気づいてくれたようです。

どの国にもその国の文化や風土があり、それぞれ似ているところもあれば、多くの違いがあります。その差違を受け入れるとともに、個人対個人の心の交流が相手を理解する上で一番大切ではないかと思えます。お互いの心の交流を進めていくためには「自分のことを相手にもっと良く知ってもらおう。」「相手のことをもっと知りたいと思う。」といった社交性が大切ですし、コミュニケーションの手段としての言語も重要になっていきます。研修生は現地校との交流や、買い物体験で、中々伝わらない言葉の壁を乗り越えようと、身振り手振りでコミュニケーションを図る姿がたくさん見られました。それこそが国際理解の第一歩だと改めて感心したところです。

中国という国への理解を深めることのできた今回の研修でしたが、福岡空港に到着し下関市に帰関するまで、改めて我が国日本の良さや素晴らしさにも気づくことができました。

（きれいなトイレ、美しい町並み、舗装の行き届いた道路、相手を思いやる自動車の運転等）

研修生一人ひとりが今回の経験や学びを、これからのグローバル社会に生きる素敵な国際人として発揮し、ふるさと下関を担う人材に成長してくれることを心から望みます。

終わりになりますが、このような有意義で貴重な研修の機会をくださいました前田下関市長様をはじめ、総合政策部国際課、下関市教育委員会、その他関係機関の皆様、子どもたちを送り出してくださいました、各校の校長先生、保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

